

# 世わやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号  
TEL 099-227-9771

南北 160 km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

## 9月…「トカラの伝統芸能祭」 十島村教育長 有村孝一

「第30回国民文化祭・かごしま2015」まで、いよいよ1か月余りとなりました。十島村は「トカラの伝統芸能祭」を、11月3日(火)鹿児島市のジェイドガーデンパレスで、また、11月14日、15日に、トカラ列島島めぐりマラソン大会と併行して各島の港で開催します。



(実行委員会の様子)

鹿児島市会場のリーフレットが完成しましたので、先日、十島村の各戸に2部ずつ配布しました。6つの島から100人近い村民が一堂に会して、各島の伝統芸能を披露することになります。かつてない十島村最大の芸能祭になります。9月18日には、各島の実行委員出席の下、最後の実行委員会が開かれ、最終的な話し合いがなされました。

御案内のとおりプログラムも決まり、各島々では、出演者の練習も仕上げに向けて熱気を帯びてきたのではないのでしょうか。秋田県と熊本県からも伝統芸能が披露されますので、楽しみにしていただきたいと思ひます。11月14日、15日には、各島港で大人の踊りや子どもたちの演舞、太鼓や吹奏楽、スチールドラムの演奏が披露されます。出演される方々の頑張りはもちろんですが、彼らを支えるのは各島々の皆様です。是非、島民の方々の熱い応援もよろしくお願ひいたします。

また、悪石島の仮面神ボゼは、県からの依頼があり、皇太子様も御出席される10月31日の開会式に出演することも決まっています。

今回の「トカラの伝統芸能祭」は、トカラの伝統芸能を単に披露するだけではありません。十島村民が一

致団結してその心意気を県内外に示し、十島村をアピールする絶好の機会でもあります。是非成功させて、十島村の存在を強く印象づけたいものです。

第30回国民文化祭・かごしま2015  
十島村国民文化祭「トカラの伝統芸能祭」

トカラの伝統芸能祭  
鹿児島県・鹿児島市ジェイドガーデンパレス

11月3日(火) 10:00～12:00  
11月14日(土) 10:00～12:00  
11月15日(日) 10:00～12:00

## いじめの問題等実態調査から

十島村内各小・中学校では、いじめアンケートによるいじめの実態調査を行いました。極小規模校の十島村では、いじめなどないと思われがちですが、アンケートを取ってみると、いじめには当たらないともいじめにつながっていきそうなものがあることがわかりました。「わるふざけ」「けんか」「突発的なもの」などです。それくらいは、普通にあるものでしょうと言われそうですが、いじめの遠因がここにあることも事実です。現在、学校が調べてもいじめに当たるものはなく、過去にあったものも今は解消しているとのことです。子どもでも一緒に生活していれば、いろいろなトラブルはつきものです。「けんか」や「わるふざけ」「突発的なもの」は仕方なく起こるとしても、その後の対応が大切でしょう。「自分もそんなことをするかもしれない。」とわかれば、相手ばかり責めるわけにはいかなくなるでしょう。「自分がされていやなことは、人にもしない。」と悟るでしょう。

思いやりとは、簡単には言い表せません。子どもの心に寄り添うとは、簡単なことではありません。少なくとも、いじめをなくすには「相手の心の痛みを感じられるどうか」にかかっていると云えるのかもしれない。



今後も、十島村の子どもたちが仲良くすくすくと成長して、立派な社会人になるよう十島村民あげて見守っていききたいものです。

## 人権に関する強調月間について

### ☆「高齢者元気・ふれあい推進月間」

9月、10月は「高齢者元気・ふれあい推進月間」です。高齢化が進んでおり、本村でもその傾向は同じです。平成20年に開催された「ねんりんピック鹿児島2008」を契機として、高齢者の生きがいがづくり、健康づくりの推進の必要性が叫ばれ、この月間が定められました。各島では、敬老会も実施されたようですが、高齢者の生きがいがづくりのために、さらに各島で様々な取組がなされるよう期待しています。



## 輝

### 南日本新聞投稿記事から

「ボゼ祭りの大役任せられ感謝」  
悪石島中学校 教諭 鹿倉 高行



8月29日に悪石島でボゼ祭りが行われました。十島村で悪石島にだけ残っている伝統的な祭りで、仮面神ボゼに赤土をつけられると健康・結婚・安産など御利益があると伝えられることから、毎年多くの観光客が訪

れます。祭りの前に、島民の男性が3体のボゼを制作します。島民の魂がこめられたボゼの一つを私が立候補してかぶって演じることになりました。当初は、島の伝統行事をしっかり引き継いでいけるか緊張や不安な気持ちでいっぱいでした。でも、島民の方が仮面の衣装の着替えを手伝ってくれたり、リラックスして演じるように優しく声かけしたりしてくれました。祭りの時は、無我夢中でしたが、無事にボゼを演じることができました。演技の後、島の人々が「良かったよ。」「ありがとう。」と声をかけてくれ、多くの観光客も喜んでくれました。教員なので悪石島に長くいるわけではないのに、伝統行事での大役を任せてくれた島の人々の温かいおもいやりに感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

祭りの翌日は、港で鹿児島島に帰る観光客を島民総出で見送りました。その光景も悪石島民のほのぼのさを物語っていました。

## シリーズ——島で暮らす 十島村の学校で生活して 「楽しい中之島での生活」 中之島小4年 大迫 聡

ぼくは、小学校4年の大迫聡です。小学校3年の時に中之島に来て、いろいろな人とふれあいました。特に心に残っているのは、古橋のりやすさんという漁師にさんの漁船に乗せていただいたことです。漁船に乗ったのは初めてでした。ウミガメやカツオドリを見ました。すぐに近くに見えて「すごいなあ。」と思いました。マグロ漁のやり方を見せてもらいました。えさのイワシをはりにかけて、次々に海におろしていきます。はりが指を貫通するけがをしたこともあったそうです。その話を聞いて、ぼくはゾッとしました。でも、漁師になりたいとちょっとだけ思うようになりました。



漁師さんの漁船に乗ることは、ふつうはなかなかできません。これは、中之島だからこそできたのではないかと思います。すごくいい体験ができました。これからも、中之島でいろいろなことを楽しみたいです。

## 十島村の小・中学校からのメッセージ

小宝島分校教諭 下川知紀

小宝島で生活して1年が過ぎた。何もかもが新しい経験ばかりで、驚きの連続の日々だった。そんな1年を学校と生活の2つの面で振り返ってみたい。

小宝島に赴任した時、全校児童生徒12人を前にして、「複式指導はどうすればいいのだろうか。」「少ない人数で話し合い活動はできるのだろうか。」など多くの不安があった。まだまだ試行錯誤の途中であり、不十分な面が多くある。しかし、少ない人数だからこそ、一人一人とじっくり向き合うことができる良さがあり、「この子にとって自分は何ができるのだろうか。」ということを中心に考えながら様々な教育活動を考え、実践することができる。

そのような中で、日々学び、たくましく成長していく子どもたちの姿を見るのは大きな喜びである。

次に、小宝島の生活面である。

人口は50人弱である。「先生、大物が釣れたから食べにおいで。」とか「畑で野菜採れたから持って来たよ。」など声をかけられる。普段の生活や地域の行事などみんなでお互いに協力し、支え合いながら生活していることを実感することが多い。また、ものを大事にするようになったことも、以前とは変化した点だ。島には店がない。今まで以上にものありがたみを家族みんなで感じている。



『便利=幸せ』ということではないということ。島の生活は教えてくれる。今までの自分自身の価値観や生活を振り返らせてくれる。いろいろな苦勞があるからこそ、今まで見えなかった大切なものが見えてくる。小宝島の自然の美しさは言うまでもない。透明度の高い青い海やのどかな牧場風景など、きれいな景色に目を奪われることも多い。

この自然豊かな環境と人間味あふれる島民の人々とともに、島の子どもの健やかな成長を支えていくことができればと思う。

## 教師仲間である「あなた」への 私からのメッセージ

「ないものを嘆くな、あるものを活かせ」という松下幸之助さんの言葉があります。十島村はそんな言葉がぴったり当てはまります。学校でも生活でも不便なことが多いですが、それらを補うために工夫する力が付きます。その力は、きっと教育活動に幅をもたせてくれると思います。